

カンボジアスタディツアー2017

8月7日（月）

カンボジアスタディツアー5日目。午前中は、ポル・ポト時代の凄惨な歴史について学ぶために、キリングフィールド、トゥールスレン戦争犯罪博物館を訪れました。ポル・ポト時代、内戦の爪痕が、現在のカンボジアのさまざまな問題の背景になっています。



私たちが訪れたのは、プノンペンにあるキリングフィールド、チュンエクです。キリングフィールドとはポル・ポト時代に虐殺が行われた刑場跡の総称で、カンボジア全土に点在しています。この虐殺によって知識人をはじめ、反革命的とみなされた尊い命が数多く失われました。

緑が鮮やかでのどかなこの場所が、わずか40年足らず前に凄惨な現場であったことはとても信じられませんが、亡くなった方が着ていた服や雨に洗い流されて今なお点在している骨などが、この場所で起こった出来事を私たちに伝えてくれます。

続いて、トゥールスレン戦争犯罪博物館に向かいます。



トゥールスレン戦争犯罪博物館はもともと高校の建物だったものを収容所として使っていた場所です。ここに収容された人は自由を奪われ、自白を促すための拷問を受け、その多くはキリングフィールドに送られて亡くなったそうです。血の跡が黒いしみになって残る床、収容されていた方々の写真などの展示などを見るにつれて、空気が重くなっていくのを感じました。特に、収容されていた個室はレンガや木材の壁で細かく仕切られ、とても人間が過ごしていた場所とは思われません。



この場所を生きて出られたのは数人とのことですが、そのうちのお一人に話を伺うことができました。辛い歴史ではあるけれども、その歴史を風化させずに若い世代に伝えていきたいという強い思いを感じました。

午後はCYK（NPO法人幼い難民を考える会）活動地の幼稚園を二か所見学しました。





見学だけではなく、一緒に歌をうたったり、簡単なゲームで交流をすることができました。最初の幼稚園は園児が 47 名に対して保育士は二人だそうです。ボランティアの方が手伝っていましたが、とても大変なことは明白です。それでも先生方がとても明るい笑顔で園児と接していたのが印象的でした。松陽生は園児たちの元気の良さに押され気味でしたが、子どもたちの純粋な笑顔にだいふ癒されたようです。

続いて、園児の家庭を二か所訪問しました。



先ほど見学した幼稚園の子どもたちがどのような家庭で生活しているのか、その様子を垣間見ることができました。松陽生もインタビュアーとなって多くの質問をしていました。カンボジアの一般家庭に対する理解が深まったのはもちろんのこと、自分たちが普段生活している環境を見つめ直すきっかけにもなったように思います。